

## 開催報告

# 第35回地盤工学会研究発表会の報告

東京大学 内村 太郎

2000年6月13日～15日にかけて、岐阜市で第35回地盤工学会研究発表会が開催されました。

ジオシンセティックスに関する分野の範囲は広く、様々なセッションで発表されるため、全体について述べることは難しいのですが、ジオシンセティックスに関係が深いと思われるセッション名がついているのは、下記のとおりでした。

「ディスクッションセッション－廃棄物と地盤環境」は、全部がジオシンセティックスを用いたものではありませんが、廃棄物の化学的な性質や、土質力学的な透水、安定の問題、遮水材料の強度・安定の問題など、様々なトピックが入れ混じっており、社会的需要が高まっていることもあって、これからはいろいろな研究ができる分野だと思いました。

また、「地盤材料－補強土」のセッションは、耐震の問題を含めた強度の問題を扱うものが多く、研究の方法は様々ですが、補強土構造物の性質、メカニズムについて、それぞれの知見を少しずつ進歩させている段階だと感じました。

地盤材料－補強土 10編

地盤挙動－地盤改良（プラスチックドレーン ほか）8編

地盤と構造物－複合構造物－軽量土 8編

地盤と構造物－複合構造物－ジオグリッド 8編

ディスクッションセッション－廃棄物と地盤環境 21編

---

## 開催報告

# 第55回土木学会年次学術講演会の報告

鹿島技術研究所 吉迫 和生

第55回土木学会年次学術講演会が、2000年9月21日(木)～23日(土)の3日間、東北大学川内北キャンパス（宮城県仙台市）をメイン会場として開催された。今回は西暦2000年という記念すべき節目の年であり、大会2日目の9月22日には全国大会初めての行事として特別討論会が企画された。討論会では、これからの社会資本の整備と土木技術のあり方について「社会資本と土木技術に関する2000年仙台宣言(案)～土木技術者の決意～」が公表され、5名の話題提供者だけでなく、会場からも忌憚のない活発な意見が飛び出し、会場は大いに盛り上がった。

第3部門（土質工学・基礎工学・岩盤力学など）における「補強土」のセッションは、大会1日目と2日目に計6セッション、45編の論文が口頭発表された。内容はほぼ例年通りで、実験、解析から現場計測まで多岐にわたっている。

また第7部門（環境システム・環境保全・用排水システム・廃棄物・環境管理など）においても「処分場の遮水工」「遮水管理」といったセッションが設けられている。前者はベントナイト混合土による遮水工が主に扱われていた。後者は遮水シートの漏水モニタリングシステムについての発表が多く行われている。